

特別な教育的支援を必要とする生徒への校内支援体制の充実 ～北斗高等支援学校との連携を通して～

北海道上磯高等学校
学級数 3
(校長 原田 稔朗)

I 実践テーマ設定の理由

- 本校は、発達障がいを含む特別な教育的支援を必要とする生徒の入学者数が増加傾向にあり、個に応じたきめ細かな指導や支援が課題となっている。そのためには、全ての教職員が、障がいについての知識・技能を身に付けた上で、チームとしての対応が必要であるが、これまでは一部の教職員に依るところが多く、総合的な校内支援体制の整備の充実が図られていない状況だった。
- 本年度、本校の校舎に北斗高等支援学校が併設されたことにより、日常的に両校が連携し、生徒間、教員間の交流・活動を深めることが容易にできる状況になった。本校はこの恵まれた環境を活用し、合同による管理職会議、分掌部長学年主任会議、校内研修会をはじめ、両校教職員相互の日常的な情報交換等を通じて本校の抱える課題解決に取り組むこととした。

II 実践の概要

1 協定書の年度毎の締結

高等学校・特別支援学校の校舎共有に関わり、施設・設備、学習活動をはじめとする学校経営・運営上のすべての事柄について協定を締結した。また協定書の内容については、取組の結果を踏まえ、年度毎に見直しを図ることとしている。

2 教育活動等における連携

- 4月 合同対面式
- 5月 壮行式、生徒大会、交通安全教室、携帯電話使用モラル教室
- 6月 避難訓練、開校式
- 7月 学校祭、旗の波運動
- 8月 職員校内研修会
- 9月 合同体育祭
- 10月 どさんこ子ども全道サミット
- 11月 四者協議会
- 12月 球技大会
- 1月 冬季休業明け集会
- 2月 合同授業「福祉」アンケートまとめ
- 3月 卒業をお祝いする会



合同対面式



合同体育祭の様子



北斗高等支援学校開校式の補助

3 合同による生徒会活動

毎週火曜日を両校の生徒会活動日と定め、合同会議を月1回実施している。両校の生徒会役員が、学校祭など共通して取り組める活動や内容について協議を行っている。



両校生徒会調印式



どさんこ子ども全道サミット・渡島会場の運営

4 合同による地域行事の参加

地域の行事である、北斗市夏祭り、北斗市青年の主張、北斗市文化祭を生徒会役員が中心となって参加している。



北斗市夏祭りへの参加



北斗市夏祭りでの行灯

5 教職員間における連携（「学校間連携事業（道教委）の活用」）

本校教諭が、北斗高等支援学校「音楽」の授業（週1単位時間）を担当している。また、北斗高等支援学校教諭が、本校選択科目「福祉」・「フードデザイン」（週6単位時間）を担当している。



家庭科授業風景



音楽授業風景

6 合同による公開授業週間の実施

両校教務部が計画し、教員相互の教科指導力の向上や生徒理解の深化を目的に、すべての授業を公開している。授業参観後は、授業参観シートを活用して授業改善に役立てている。

7 地域連携研修事業の活用

本校が主管校、北斗高等支援学校、上磯中学校、石別中学校、茂辺地中学校、函館水産高等学校、大野農業高等学校、松前高等学校、函館商業高等学校（定時制）が連携校となり、研修を行い、授業参観を通して指導や支援の在り方や、個別の教育支援計画の引継ぎなどについて理解を深めている。



地域連携研修会（「福祉」の公開授業）

公開授業での生徒アンケート

<本校>

- ・ 支援学校生徒のシーツ交換の手際よさに驚いた。勉強になった。北斗は実践的だ。
- ・ これから長い付き合いになるので人間関係づくりは大切であると思った。
- ・ 福祉は希望の職種であるが、北斗の生徒は設備が整い専門的に取り組んでいる。上磯高校も北斗高等支援学校の設備を活用して福祉の授業が増えれば進路につながると思った。
- ・ 北斗との授業は、初めてであったが楽しかった。しかし、コミュニケーションとか距離感が難しかった。回数を増やせば解消されると思う。継続すべきである。

<北斗高等支援学校>

- ・ 上磯高校と楽しく授業ができた。グループワークもしっかりできた。
- ・ 緊張したけど楽しかった。

Ⅲ 合同による校内研修会等の実施

1 校内研修会

合同研修をととして両校生徒に対する共通理解を図り、両校が「協和」し、どのような連携ができるかを創造する場とすることを目的に実施した。両校生徒の「強み・弱み」を話し合い、今後の「共生のあり方」をワールドカフェ方式で協議した。



協同・協働に向けて、両校生徒の「強み・弱み」について協議を深める中で、両校の目指す教育は同じことを再認識できた。互いの生徒のよさを伸ばすための継続的な支援を行うには、今後も、合同で行う会議や学校行事そのものを研修と位置付け、互いの学校体制の在り方や、生徒の指導・支援に関する基礎的な知識・技能を共有することで、両校の教職員の資質・能力が高まることを実感した。

本校が抱える課題解決へ向け、大きなきっかけとなる合同研修会となった。

KJ法を用いたグループ討議



両校合同校内研修会（ワールドカフェ）の様子

2 管理職による打合せ

- ・ 毎日教頭間で両校の日報を交換し、両校の予定を確認している。
- ・ 管理職による打合せを月1回実施している。
- ・ 校長間の打合せについては、随時実施し、行事や懸案事項等の協議を行っている。

3 保護者間における連携

- ・ 合同PTA役員会・懇親会を実施している。
- ・ 学校祭のPTA合同出店（バザー）の実施している。

4 パートナー・ティーチャー派遣事業の活用

本校生徒2名のケースについて、相談等を実施している。



北斗市駅伝大会合同チーム出場



学校祭両校PTA合同出店（バザー）

IV 先進校視察（高校と特別支援学校の併設校）H29. 10. 23～10. 26

1 視察先

- (1) 滋賀県
愛知高校・愛知高等養護学校
- (2) 埼玉県
大宮武蔵高校・大宮北特別支援学校
- (3) 神奈川県
瀬谷西高等学校・三ツ境養護学校

2 視察の目的

- ・学校企画、運営について
- ・学校行事について
- ・学校間連携について
- ・校内研修会について
- ・進路指導について

3 視察による成果

- ・各校、「併設1～2年目が一番大変であった、苦労した」と共通して説明していた。当時の記録から「ホウ・レン・ソウ」を両校間で管理職、学年、分掌が頻繁に行い、情報や課題を共有することが重要であることを認識した。
- ・職員の合同研修会を積極的に行っている。
- ・生徒の合同行事を精選し、年間を通じて途切れない活動を心がけている。
- ・地域との交流事業は両校の生徒会を中心に行っている。
- ・進路指導においては、高校の協力を得ながら進路開拓に努めている。



滋賀県立愛知高等学校

V 成果と課題

1 成果

- (1) 北斗高等支援学校との合同による取組や、日常的な情報交換により、本校の総合的な校内支援体制の充実に向け、「何をするのか」「どのように体制づくりをするのか」などの目標設定が明確になった。
- (2) 通常の学級に在籍する発達障がいを含む特別な教育的支援を必要とする生徒の指導や支援に関する基礎的な知識・技能は、北斗高等支援学校との合同による取組により習得することが可能であることを共通認識できた。
- (3) 本校生徒の心身両面での成長が伺えた。理由は福祉の合同授業(12/1 金)において、北斗高等支援学校の生徒を笑顔で見守りつつ、自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が随所に見られたからである。
- (4) 合同による教職員研修会により、北斗高等支援学校教職員から、特別な支援を必要とする生徒、特性のある生徒への多面的な指導方法を学ぶことで生徒理解に生かすことができた。

2 課題

- (1) 自らの課題に向き合おうとしない生徒に対する個別の指導計画や支援計画の作成、活用及び校内の支援体制の整備の充実。
- (2) 通常の学級に在籍する発達障がいを含む特別な教育的支援を必要とする生徒の指導や支援に関する基礎的な知識・技能を高める研修のあり方の検討。
- (3) 校訓である「協和」の意味を十分に理解し、相手を深く理解しようとする姿勢で、学校生活を送ることを通して身に付けた豊かな心の評価のあり方。

Ⅶ 課題解決の方策

- 1 合同の公開授業や校内研修を一層充実させ、本校職員が個別の指導計画や支援計画の作成についての知識・技能を向上させる。また、本校教職員が総合的な校内支援体制についての研修を充実させる。
- 2 合同研修会の継続的な実施だけでなく、合同による行事等の実施についても研修と位置付け、計画と評価を行う。
- 3 学校間連携の一層の充実・強化を図る。
 - ・授業（教員の相互派遣、学校設定科目による施設・設備の共有）
 - ・行事（学校祭、北斗市夏祭り、四者協議会等の共催、参加）
 - ・生徒の主体性を促す活動（生徒会活動、部活動、ボランティア活動等）

Ⅷ 実践研究報告

学校間連携の目的を踏まえ、今後も多様なニーズに対応した本事業の改善・充実に資する実践研究の途中経過を報告した。

今後も、次年度に向けた両校の教育課程の検討、授業形態や教育活動全般における再編成の検討など、状況に応じて見直しを図り、運用上の諸課題を解決していく必要がある。

入学生確保が両校の課題であるが、生徒募集に向けた取組として、北斗市の協力のもと、毎月学校通信を市内全 8500 戸に配布し学校理解に努めている。

中学校訪問も両校合同で年 2 回実施し、活動を紹介したことで、両校の特色である、個に寄り添い、生徒一人ひとりを大切に、温かく支援する丁寧で親身な教育活動が理解され、学校説明会に多くの生徒、保護者が来校し、今後に向けて期待できる結果となった。

今後も「地域の学校」として存続できるように、両校の活動の周知徹底、地域との繋がりを重視したボランティア活動や各種行事を通じた取組を行っていききたい。本校生徒の一部には、不登校、特別な支援等を必要とする生徒も在籍しているが、北斗高等支援学校との併設により、日一日と本校生徒の表情が和らぎ、本来の明るさを取り戻していく姿を見て両校の存在意義を感じている。

以上、本校の取組を報告したが、本実践研究が道内の高校に広く知られることで、各校の教育活動の充実に資することができるなら幸甚である。



学校祭（清蹊祭）の両校集合写真